

| | |
|-------------|---------------------------------|
| Syllabus Id | syl.-1001572 |
| Subject Id | sub-1001007650 |
| 更新履歴 | 20100326 新規 |
| 授業科目名 | 経済学 ECONOMICS |
| 担当教員名 | 小倉将志郎 |
| 対象クラス | 全学科・5年 |
| 単位数 | 2学修単位（自学自習を含め90時間の学修をもって2単位とする） |
| 必修／選択 | 選択 |
| 開講時期 | 前期／後期 |
| 授業区分 | 人文・社会科学・語学等 |
| 授業形態 | 講義 |
| 実施場所 | 5学年各クラス HR もしくは、選択制 III 教室 |

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

商品の価格はどのように決まるのか？国の経済規模はどのように計測するのか？経済成長って何？といった素朴な疑問から、公共事業は無駄遣い？サブプライムローン問題はなぜ生じたのか？といった現代的諸問題まで、経済学は様々な社会的諸事象を論理的に説明するツールとなりうる。また本講義の内容を修得することができれば、日本経済新聞や週刊エコノミストといった経済専門誌も大分読みやすくなることだろう。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

| | Weight | 目標 | 説明 |
|---------|--------|----|---------------------------------------|
| 学習・教育目標 | | A | 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成 |
| | | B | 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成 |
| | | C | 工学専門知識の創造的活用能力の養成 |
| | | D | 国際的な受信・発信能力の養成 |
| | | E | 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成 |

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

本講義ではオーソドックスな経済理論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の基礎を学習するとともに、そうした経済理論に特有の考え方について説明する。抽象的な経済理論が現実が生じている具体的な事象を説明する上でどれだけ有効であるか、またそこにはどのような限界があるのか、経済学のエッセンスに触れ、その到達点と限界点を修得する。

授業計画（プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）

| 回 | メインテーマ | サブテーマ | 参観 |
|-----|------------|---------------|----|
| 第1回 | オリエンテーション | | |
| 第2回 | 経済学とは何か | | |
| 第3回 | ミクロ経済学の基礎① | 需要と価格 | |
| 第4回 | ミクロ経済学の基礎② | 供給と価格 | |
| 第5回 | ミクロ経済学の基礎③ | 価格メカニズム | |
| 第6回 | マクロ経済学の基礎① | GDP と三面等価 | |
| 第7回 | マクロ経済学の基礎② | 物価水準、インフレとデフレ | |

| | | | |
|--|--|-------------|---|
| 第 8 回 | マクロ経済学の基礎③ | 財政政策・金融政策 | |
| 第 9 回 | 経済学的思考① | 囚人のジレンマ | |
| 第 10 回 | 経済学的思考② | 機会費用と埋没費用 | |
| 第 11 回 | 経済学的思考③ | インセンティブ | |
| 第 12 回 | 経済学的思考④ | モラルハザードと逆選択 | |
| 第 13 回 | 経済学的思考⑤ | 価格差別 | |
| 第 14 回 | 経済学的思考⑥ | 共有地の悲劇 | |
| 第 15 回 | 経済学的思考⑦ | ネットワーク外部性 | |
| 第 16 回 | 定期試験 | | × |
| <p>課題 自学自習課題として適宜提出させる。</p> <p>レポート内容：授業で取り扱った論点についての考察や授業内容のまとめ等 提出場所：授業実施教室 提出期限：出題した次週またはそれ以降の指定した日時 オフィスアワー：火曜日 12:30～13:00</p> | | | |
| <p>評価方法と基準</p> <p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験（論述試験） 2. 自学自習課題レポートの評価を加味する。 <p>評価基準</p> <p>詳細については講義中に口頭で知らせる。</p> | | | |
| 教科書等 | 前半については、小塩隆士『高校生のための経済学入門』（筑摩書房、2002年）を教科書に、後半については、吉本佳生他『出社が楽しい経済学』（NHK出版、2008年）を参考図書に指定する。 | | |
| 先修科目 | | | |
| 関連サイトのURL | | | |
| 授業アンケートへの対応 | | | |
| 備考 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 | | |